

問1 663年、日本（倭）は朝鮮半島の南西部に位置していた国を復興させるために大軍を派遣しましたが、中国大陸の唐と朝鮮半島の新羅による連合軍に大敗しました。この出来事を何といいますか。（2024年 香川公立入試 類似）

1. 白村江の戦い 2. 壬申の乱 3. 刀伊の入寇 4. 文永の役

問2 645年に始まった政治改革において、中大兄皇子らが進めた「天皇を中心とした国づくり」の具体的な内容として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 愛媛公立入試 類似）

1. 土地や人民は豪族が私有するのではなく、すべて国家のものとする公地公民の原則を打ち出した 2. 地方の豪族に土地の支配権を完全に委ねることで、各地域の農業生産力を向上させた 3. 武士の力を結集して幕府を開き、貴族に代わって武家が政治の主導権を握る仕組みを作った 4. 実力のある人物を役人に登用するため、冠位十二階の制度をより強化して豪族の特権を認めた

問3 飛鳥文化が成立した背景として、当時の政治の動向と文化的な影響について述べた文章のうち、正しいものはどれか選びなさい。（2023年 埼玉県公立入試 類似）

1. 聖徳太子が仏教を厚く保護したことで、法隆寺などの寺院を拠点に、中国の南北朝時代の影響を受けた文化が開花した。 2. 聖武天皇が国ごとに国分寺や国分尼寺を建てたことで、仏教が地方まで広まり、唐の様式を取り入れた文化が定着した。 3. 藤原氏による摂関政治が安定したことで、浄土信仰が広まり、阿彌陀堂などの日本独自の建築様式が確立された。 4. 鑑真が来日して正しい戒律を伝えたことにより、唐招提寺を中心に、写実的で人間味あふれる仏像が数多く作られた。

問4 聖徳太子（厩戸王）が建立したと伝えられ、現存する世界最古の木造建築物群である五重塔や金堂を有している、飛鳥文化を代表する寺院はどれですか。（2024年 愛媛公立入試 類似）

1. 法隆寺 2. 東大寺 3. 平等院 4. 鹿苑寺（金閣）

問5 天智天皇の時代、香川県の屋島などの各地に防衛拠点となる山城（朝鮮式山城）が築かれるとともに、全国規模の戸籍が作成されました。これらの政策が共通して目的としていた当時の背景として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 香川公立入試 類似）

1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したため、国内の防衛体制と動員能力を強化しようとした。 2. 和同開帳などの貨幣を全国に流通させるため、人々の経済活動を正確に把握しようとした。 3. 平城京への遷都を円滑に進めるため、各地の有力な豪族を地方官として再編しようとした。 4. 大宝律令を完成させるため、仏教の力を利用して国を治める国家鎮護の思想を広めようとした。

問6 7世紀の日本の出来事をまとめた年表において、天智天皇の死後に起きた大規模な内乱である「壬申の乱」の当事者となった人物の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2025年 愛知公立入試 類似）

1. 大海人皇子と大友皇子 2. 中大兄皇子と蘇我入鹿 3. 平清盛と源義朝 4. 足利尊氏と後醍醐天皇

問7 7世紀後半、天智天皇の死後にその跡継ぎをめぐる大海人皇子と大友皇子が争った、古代最大といわれる内乱はどれですか。（2026年 三重公立入試 類似）

1. 壬申の乱 2. 壬生の乱 3. 保元の乱 4. 平治の乱

問8 7世紀半ば、朝鮮半島の南西部に位置し、日本（倭）と親密な関係にあったものの、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた国はどこか。日本はその復興を支援するために、663年に朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで大敗を喫することとなった。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 百濟 2. 新羅 3. 高句麗 4. 任那

問9 7世紀初め、聖徳太子が中国の隋に小野妹子らを派遣した外交政策の目的と、その内容を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 栃木公立入試 類似）

1. 中国と対等な立場での外交を目指し、大陸の進んだ制度や文化を取り入れて天皇中心の国づくりに役立てるため。 2. 隋の皇帝から日本国王としての称号を得ることで、朝鮮半島での軍事的な優位性を確立するため。 3. 日本が中国の属国であることを認め、毎年の朝貢を約束することで日本国内の反乱を抑えるため。 4. 蘇我氏が大陸との貿易を独占し、天皇を凌ぐ経済力を背景に権力を掌握するための私的な使節とするため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 白村江の戦い	660年に唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた百済を復興させるため、日本は大規模な援軍を送りましたが、朝鮮半島の白村江（はくすきのえ）で大敗を喫しました。この敗戦の結果、日本は朝鮮半島における影響力を失い、国内の守りを固める政策へと転換することになります。
問2	答え 1 土地や人民は豪族が私有するのではなく、すべて国家のものとする公地公民の原則を打ち出した	大化の改新では、当時の中国（唐）の制度を参考に、それまで豪族が個別に支配していた土地や人民を国家が直接管理する「公地公民」の制度を目指しました。これにより、全国的な徴税や戸籍の作成が可能になり、天皇による中央集権体制の基礎が築かれました。
問3	答え 1 聖徳太子が仏教を厚く保護したことで、法隆寺などの寺院を拠点に、中国の南北朝時代の影響を受けた文化が花開いた。	飛鳥文化は、推古天皇の摂政であった聖徳太子や蘇我氏が仏教を政治に取り入れ、厚く保護したことで発展しました。当時の中国は南北に分かれていた「南北朝時代」にあたり、その建築様式や仏像制作の技法が百済（くだら）などを經由して日本に伝わりました。現存する世界最古の木造建築である法隆寺は、その代表例です。
問4	答え 1 法隆寺	法隆寺は、推古天皇の摂政であった聖徳太子によって建立されたと伝えられています。その西院伽藍（金堂や五重塔など）は、飛鳥時代の仏教建築様式を今に伝える貴重な遺構であり、世界最古の木造建築物としてユネスコの世界遺産にも登録されています。東大寺は奈良時代（天平文化）、平等院は平安時代（国風文化）、鹿苑寺は室町時代の建築です。
問5	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したため、国内の防衛体制と動員能力を強化しようとした。	中大兄皇子（天智天皇）は、百済復興のために送った軍が白村江の戦いで大敗したことを受け、唐や新羅による日本侵攻を強く警戒しました。そのため、屋島城などの山城や水城を築いて防衛線を固めると同時に、全国規模の戸籍を作成して兵役や税を課す対象を明確に把握し、非常時に国全体を動員できる体制を整える必要がありました。
問6	答え 1 大海人皇子と大友皇子	壬申の乱（672年）は、天智天皇の後継者の座を争い、天皇の弟（大海人皇子）と息子（大友皇子）が戦った古代最大の内乱です。中大兄皇子と蘇我入鹿の対立は、この乱より前の645年（乙巳の変）の出来事です。また、平清盛や源義朝は12世紀の平安時代末期、足利尊氏や後醍醐天皇は14世紀の南北朝時代に近い時期の人物であり、7世紀の出来事である壬申の乱とは時代が大きく異なります。
問7	答え 1 壬申の乱	天智天皇が亡くなった後、その弟である大海人皇子と、子である大友皇子の間で後継者争いが起こりました。これが672年の壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、中央集権化をさらに推し進めることとなりました。
問8	答え 1 百済	7世紀の朝鮮半島では、唐と結んだ新羅が勢力を拡大していました。660年に百済が滅亡すると、日本（倭）は友好関係にあった百済の遺臣から救援を求められ、復興を支援するために大軍を派遣しました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したことで、百済復興の道は閉ざされました。
問9	答え 1 中国と対等な立場での外交を目指し、大陸の進んだ制度や文化を取り入れて天皇中心の国づくりに役立てるため。	聖徳太子は、当時の進んだ法制度や仏教文化を学ぶことで、日本を天皇を中心とした中央集権国家にする狙いがありました。小野妹子が持参した国書には「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」と記されており、これまでの朝貢外交とは異なる対等な外交を求めたことが特徴です。蘇我馬子は聖徳太子と協力して政治を行っていましたが、遣隋使は私的な使節ではなく国家の事業です。